

同志社大学

同志社社史資料センター報



第15号
2018年度

1. 巻頭言：2018年度の報告にあたって
2. コラム：小林文広氏／布施智子氏
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会・シンポジウム
6. 研究活動
7. 第176回新島襄生誕記念会
8. ハリス理化学館同志社ギャラリー
9. 新島旧邸
10. 委員会

2018年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 小林 丈広

2018年度は、例年通り所蔵史料の整理を着実に進めるとともに、ハリス理化学館同志社ギャラリーにおいては社史資料調査員が長年暖めてきた展覧会を実現した。また、2025年の同志社創立150年に向けて、『同志社百五十年史』編纂事業の準備に着手した。

ハリス理化学館同志社ギャラリーの企画展示室では、次のような展示を開催した。まず同志社社史資料センター主催の展覧会として、前年度の3月13日から本年度4月28日にかけて第14回企画展として2017年度新収蔵品展を、8月1日から10月7日には第15回企画展「新島襄のかお」展、11月1日から12月22日には第16回企画展「私学と兵役—同志社の学徒出陣」を開催した。このうち、「新島襄のかお」は夏休みに合わせて初めて子供向けを意識して開催したもので、会期中に1万6千人を超過する展覧者を得ることができた。「私学と兵役」は、学徒出陣75年に合わせて前年度より続けてきたスポット展示をはじめとする研究活動の成果を集大成したもので、望月雅士氏を招き公開講演会「学徒出陣75年と戦争史研究」を開催した。また、2019年2月26日から3月24日には歴史資料館主催で第17回企画展「考古学は地域に勇気を与える—森浩一の考古学2—」が開催された。

また、常設展示室を中心に学内各クラブも日頃の活動の成果を披露した。2018年4月には美術部クラマ画会春の学内展「桜花爛漫」、10月には同じくクラマ画会後期展「ちいさい秋」と書道部2回生展「粋」、12月には書道部書展「玄冬展」、2019年1月には写真同好会冬季写真展「救い」、3月には書道部卒部展「一里塚」が行われた。

さて、いよいよ同志社創立150周年まであと6年となった。当センターではそれに備えて、資料の収集・整理・保存という、大学アーカイブズとしての本来業務に本格的に取り組んでいる。『同志社百年史』の編纂以来、数多くの資料が収集されたものの、活用されているのはごく一部である。まずは、それらの整理を進め、将来の編纂事業、さらにはその後の活用・公開に対応できるようにしたい。

2017年度末には、『同志社百五十年史』の編纂に向けて、編纂準備委員会を発足することができた。本格的に編纂を開始する際には、組織・人員・予算の問題だけでなく、資料を保存・活用するための施設や調査・編集を行うためのスペースなど多くの課題に取り組む必要があるものと考えます。今後とも、同志社内外の方々のご協力をお願いしたい。

『同志社百五十年史』の準備作業に着手

同志社社史資料センター
所長 小林 丈広

同志社社史資料センターは、2017年11月に開かれた学校法人同志社理事会の決定を受けて、7年後に迫る同志社創立150年の記念事業として編纂すべき『同志社百五十年史』のあり方について、その検討を始めた。

第1回『同志社百五十年史』編纂準備委員会は、2018年3月26日に有終館において開催され、冒頭、八田英二総長よりご挨拶をいただいた。委員には、キリスト教文化センター所長や法人事務部長のほか、大学、女子大学、中学校・高等学校などから同志社の歩みや教育史などに見識をお持ちの学識経験者を委嘱し、まずは編纂事業の方向性や規模などについて、いちから議論をすることとした。

2018年度に入ると、月1回のペースで委員会を催し、『同志社百年史』編纂に携わられた先生方、『同志社百年史』編纂の際に事務局を担われた方々、その後の同志社研究を推進してこられた研究者などをゲストにお招きし、これまでの研究成果や経験談をうかがい、『同志社百五十年史』のあり方についても忌憚のないご意見を賜った。

また、2018年8月には、2032年に創立150年を迎える早稲田大学大学史資料センターを視察した。早稲田大学が創立150年を迎えるのは、同志社よりも7年遅いが、すでに『早稲田大学百五十年史』に着手されているとお聞きしたので、先行事例に学ばせていただくことにしたのである。視察では、大規模な収蔵庫の内部を隅々までご案内いただいただけでなく、編纂事業の方針や実務内容についても具体的にうかがうことができ、今後の編纂のあり方を考える上でたいへん参考になった。当方の無理なお願いにも丁寧にご対応いただいた早稲田大学の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げたい。

現在は、委員それぞれが『同志社百年史』を読み込み、その到達点と残された課題を共有する作業を行っている。こうした作業を通じて、あらためて『同志社百五十年史』が対象とする時期、編纂の規模、そのために必要な事務局体制や史料収集方針などについても見定めていきたいと考えている。



収蔵庫内の様子



中性紙保存箱での資料保存の状況

未整理資料の整理事業について

同志社社史資料センター

社史資料調査員 布施 智子

同志社社史資料センターは、前身である同志社社史史料編集所（1963年設置）時代から一貫して「新島襄並びに同志社関係資料の収集、整理、保存及び公開業務」が第一の目的であり、そうした資料の集積地として機能している。本誌やセンターの紀要『同志社談叢』等で記録、報告がなされている通り、購入・移管・寄贈によって、毎年、所蔵資料数が増え続けている。受け入れた資料はまず、資料の状態や内容等を調査したうえで、センター所蔵資料として登録するという一連の整理作業を行う。整理作業ののち、研究を目的とする閲覧に供したり、展示で紹介するなどの資料の利用が可能となる。編集所設置以降56年に及ぶセンターの歴史のなかで、多くの資料が蒐集されてきたが、必ずしも整理作業が追いついていたわけではなく、「未整理資料」と呼ばれるダンボール箱が各資料室の多くのスペースを占めている状況であった。

本誌14号（2018年4月30日発行）の巻頭言にて既報の通り、同志社では2025年に創立150周年の記念の年を迎えるにあたって年史編纂に向けての検討が始められた（編纂準備委員会の詳細は本誌2頁を参照のこと）。『同志社百年史』（1979年発行）以来となる年史の編纂となれば、センターが所蔵している資料が基礎となることは言うまでもない。なかでも『同志社百年史』編纂時には利用されていなかったであろう未整理資料の活用が新規性の要となる。そこで、当センターでは2015年秋学期から未整理資料の整理事業に本格的に着手した。特定事業として別途予算を確保し、センターの日常業務の一つとして改めて位置づけたのである。毎日の業務は調査員の指示のもと、学部生と大学院生の学生アルバイトがシフト制で作業にあたるという体制を組んで行っている。

1年目は未整理資料の概要と数量を把握するため、古びたダンボール箱にまとめて入れられていた資料を中性紙の資料保存箱に移し換えながら、資料点数（概数）・内容・種別等の大まかな情報を箱ごとに一枚の帳票にまとめるという導入調査を行った。その結果、これまで数量すら把握ができていなかった未整理資料の大体の点数が分かり、箱数は約1800箱、それぞれの箱に収められている資料点数は約63,000点であった。ただし、この資料点数はあくまで概数であり、実数は約100,000点を超えると予想される。2016年度からは、それぞれの箱に収められた資料の調査を始めた。専用の調書に、言語・資料名・作成年月日・作成者・宛先・寸法・員数・形態・記入法・材質といった基本項目のほか、資料の内容や状態について備考欄に特記していくという詳細な資料情報を資料ごとに採り、調書を作成している。一箱分の調査が終わると、手書きの調書の内容をデータ入力し、さらに統合データベースにデータをまとめている。将来的には、この統合データベースに全ての未整理資料の個々の情報が一元化され、検索も可能となるので、利用の幅が広がるのが期待できる。なお、今回の調査では、既存の箱ごとに資料番号を付けてグルーピングしており、内容に応じての再分類は行っていない。「どの資料がどこにあるのか」を確実に把握し、できるだけ早く利用できる状態にすることを優先しているためである。

導入調査後の本格的な調査が始まってから丸3年が経つ。この間の調査の進捗状況を数で示すと、次の通りである。

2016年度	88箱	資料点数(実数)	8,756点
2017年度	93箱	資料点数(実数)	11,861点
2018年度	232箱	資料点数(実数)	5,092点

未整理資料だけで、25,709点の調査が済んだが、予想される資料点数(実数)が約100,000点とすれば、4分の1程度が終了したことになる。150周年の年史編纂が本格的に始まり、執筆に間に合わせようとするれば、さらに作業のペースを上げていかなければならない。

これらの未整理資料は、これまで利用がなされていなかった資料が大半で、調査が終わったことでこれまでの知見を補完したり、再検証するための素材が少しずつ増えていると言える。調査の結果は、この間に開催した企画展でも展観している(例:第11回、第14回)。また、センターに寄せられる調査相談の回答にも既存資料に加えて未整理資料も紹介することが可能となるなど、センター内外を問わず研究の幅を広げる資料として有用である。最後に、若干の問題点も指摘しておきたい。まず実際の作業を担当している学生アルバイトの安定的な確保が難しいことが挙げられる。次に、今後年史編纂が現実化すると、資料の寄贈や移管が増えることが予想され、現有の未整理資料だけでは整理が追いつかなくなる可能性があり、その分の作業量の増加にどう対応するのか、作業のスピードアップとともに考えていかなければならない。そして三点目は、現在でも各資料室の収容率は100%を超えている状態であるが、資料の収蔵スペースをどう確保していくのが課題である。

未整理資料の整理事業の開始から4年目となるが、まだ一連の作業方法が確立できているわけではなく、試行錯誤しながら、センターに適した整理方法を模索しているところである。また、整理が済んだ資料の利用に関しては、未だ統一した基準を設けるまでに至らず、各個資料が持つ情報の特性によってセンターが判断している。今後、年史編纂をはじめとして資料の利用が進むなかで、利用方法についても順次検討を重ねていきたい。



未整理資料が収められた中性紙保存箱が並ぶ資料室①の書架



学生アルバイトによる資料整理業務の様子

資料業務

1. 資料整理

1. 資料業務

・ 収蔵資料

遺品庫	約6,500点
資料室	約12,200点
整理済み資料	約36,000点

・ 蔵書冊数

図書	12,892冊
逐次刊行物	1,198タイトル

2. 参考業務

・ レファレンス数	699件
文献調査	210件
事項調査	454件
その他	35件

2. 資料提供 (写真資料を中心に)

日本キリスト教団出版局
株式会社フェアウインド
会津若松市観光課
信徒の友編集部
株式会社メディカルサポート
岡山大学大学院社会文化科学研究科
TBSビジョン制作一部
リーライダーズ
福島中央テレビ
駐大阪・神戸米国総領事館関西アメリカンセンター
福島テレビ報道局
株式会社シンク

株式会社元気な事務所
朝日新聞出版写真部
株式会社ホワイトブレイン
フジテレビジョン編成局制作センター
株式会社おかしん総研
日本赤十字福島県支部
京都市上下水道局
関西大学東西学術研究所
合同会社浩然社
朝日新聞大阪本社
NHKエンタープライズ

博物館実習の受け入れ

【同志社大学「学外実習」受け入れについて】

本年度は8名の学生を受け入れ、2グループ(第1期：8月8日～10日、第2期：8月22日～24日、ただし台風20号接近のため23日は休講)に分け、毎日3時間、合計9時間の実習を行った。実習の目的を大学アーカイヴズの意義をふまえた常設展示の企画及び設営と設定し、大学アーカイヴズに関する講義、資料室および展示施設の見学、他館からの資料借用を想定した調書の作成および美術梱包を実施した。



実習風景

【同志社女子大学「博物館実習」受け入れについて】

本年度は3名の学生を受け入れ、8月27日～31日までの5日間、毎日6時間の実習を実施した。実習内容は、①施設・設備、②資料展示、③資料収集、④資料調査、⑤資料の取り扱いと保存修復に関する講義と実習指導を行った。特に、資料収集については、解体前のフレンド・ピース・ハウスを見学し、建物内に残存している建具や調度類など、当センターで保存すべき資料の選別と輸送手配を行った。普段、同志社女子大学の京田辺キャンパスで学ぶ実習生達にとっては、馴染みのない建築物ではあるが、現用から非現用へ資料の移行過程を見ることができる貴重な機会となったようである。また、本年度はハリス理化学館同志社ギャラリーにて、夏季企画展が開催中であったため、例年行っている模擬展示や設営実習は行わず、ギャラリーの集客力を向上させるための案をそれぞれ考えて発表する時間を最終日に設けた。SNSを積極的に利用する等、学生層へのアピール方法として参考となる案が揃った。



作業風景

展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第14回企画展

テーマ：同志社社史資料センター2017年度新収蔵品展

期 間：2018年3月13日(火)～2018年4月28日(土)

主 催：同志社社史資料センター

来場者数：4,854人

実施日数：41日



第15回企画展

テーマ：新島襄のかお

期 間：2018年8月1日(水)～2018年10月7日(日)

主 催：同志社社史資料センター

来場者数：16,009人

実施日数：50日



展示説明会

日 時：2018年8月5日(日) 4回実施 参加者235人

2018年8月18日(土) 2回実施 参加者12人

第16回企画展

テーマ：私学と兵役—同志社の学徒出陣

期 間：2018年11月1日(木)～2018年12月22日(土)

主 催：同志社社史資料センター

来場者数：8,559人

実施日数：44日



展示説明会

日 時：2018年11月14日(水) 15:00～ 参加者30人

常設展示室「同志社の今」特別陳列

第21回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会 春の学内展「桜花爛漫」
期 間：2018年4月3日(火)～2018年4月28日(土)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：1,956人
実施日数：23日



第22回

テーマ：同志社大学美術部クラマ画会 後期展「ちいさい秋」
期 間：2018年10月2日(火)～2018年10月13日(土)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
来場者数：800人
実施日数：11日



第23回

テーマ：同志社大学書道部 二回生展「粹」
期 間：2018年10月16日(火)～2018年10月27日(土)
主 催：同志社大学書道部
来場者数：1,284人、2階「企画展示室」1,874人
実施日数：10日



第24回

テーマ：同志社大学書道部 書展「玄冬展」
期 間：2018年12月4日(火)～2018年12月16日(日)
主 催：同志社大学書道部
来場者数：1,206人
実施日数：12日



第25回

テーマ：同志社大学写真同好会 冬季写真展「救い」
期 間：2019年1月8日(火)～2019年1月19日(土)
主 催：同志社大学写真同好会
来場者数：398人
実施日数：10日



第26回

テーマ：同志社大学書道部 卒部展「一里塚」
期 間：2019年3月5日(火)～2019年3月10日(日)
主 催：同志社大学書道部
来場者数：269人
実施日数：6日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」をテーマに、新島八重関係資料(レプリカ)と写真パネルを貸出

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示への展示協力

上記で実施された第7期展「新島襄の学校構想—新島の描いたVisionとChallenge—」(会期：2018年3月～9月) 第8期展「新島襄の遺した言葉」(会期：2018年9月～2019年3月)において企画立案準備設営に関して協力

「戊辰戦争150年」への展示協力

新潟県立歴史博物館・福島県立博物館・仙台市立博物館が共同で主催する上記共同企画展覧会(会期：2018年6月～12月)へ資料画像データ1点を提供

「一八六八年の会津藩」への展示協力

若松城天守閣郷土博物館が主催する上記企画展(会期：2018年9月15日～11月6日)へ新島八重旧蔵若松城写真7点を貸出

「[明治150年記念特別企画]新島襄のアーモスト大学時代(1867年～1870年)」への展示協力

ラーネッド記念図書館における秋学期企画展示(会期：2018年9月24日～2019年1月26日)へ資料15点を貸出、資料画像データ4点を提供

「特別展 幕末・維新の人とことば」への展示協力

大阪城天守閣が主催する上記企画展(会期：2018年10月6日～11月25日)へ資料2点を貸出、資料画像データ3点を提供

同窓会展示ブースへの展示協力

同志社女子中学校・高等学校バザーにて展示(会期：2018年10月2日～10月6日)へ資料画像データ2点を提供

「私たちの郷土古文書読解展」への展示協力

安中古文書学習協議会が主催する上記展示(第42回安中市市民展 会期：2018年11月15日～18日)のため、新島公義宛書簡24点の画像を提供

「学寮140年のあゆみ」への展示協力

同志社女子大学史料センターが主催する上記企画展(会期：2018年11月23日～2019年7月31日)へ同志社女学校規則(明治13年6月)を貸出、資料画像データ9点を提供

地域協力

- ・2019年2月15日(金)京都市立第三錦林小学校6年生の人権学習に協力し、尹東柱詩碑及び鄭芝溶詩碑を説明



説明風景

- ・2018年10月11日(木)～10月14日(日)源氏藤袴会主催の2018年香りが町を包む「藤袴祭」でスタンプラリーに協力



期間中の新島旧邸玄関

- ・2018年3月、安中古文書学習協議会の教育活動利用のため新島公義宛書簡112点の画像を提供



展示風景

公開講演会・シンポジウム

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

「私学と兵役—同志社の学徒出陣」公開講演会

演 題：「学徒出陣75年と戦争史研究」

講 師：望月 雅士氏(早稲田大学教育学部非常勤講師)

日 時：2018年11月14日(水) 13：00～14：30

場 所：良心館305番教室
(同志社大学今出川キャンパス)

参加者：64名



研究活動

第1部門研究(新島研究)の研究会や機関紙の刊行は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 横井 和彦)

第173回例会	2018年4月9日(月) 「対談:新島襄は強い人であったか、それとも?」 対談者:北垣 宗治・井上 勝也
第174回例会	2018年5月14日(月) 『新島研究』109号論評会 「新島襄の米欧教育制度調査と文部省『理事功程』」 報告者:大越 哲仁 論評者:井上 勝也 「新島襄と会津若松教会設立期の人々—民権家と熊本洋学校のネットワーク—」 報告者:山下 智子 論評者:本井 康博 「下村孝太郎と新島襄との往復書簡—1881年~1890年—」 報告者:森 一郎 論評者:大鉢 忠
第175回例会	2018年6月11日(月) 「新島襄が生きた19世紀—aヨーロッパ、bアメリカ、c日本」 報告者:吉田 繁
第176回例会	2018年7月9日(月) 「新島襄の一番弟子、徳富蘇峰と元陸軍中将遠藤三郎—その戦争日記を読む—」 報告者:吉田 曠二
第177回例会	2018年8月4日(土) 企画テーマ「新島襄の大学構想—『同志社大学設立の旨意』130年—」 司会:本井 康博 企画報告1「カレッジとユニバーシティー—新島襄の私立大学構想—」 報告者:大越 哲仁 企画報告2「新島襄と女性教育—『新島襄先生の遺訓』を手がかりに—」 報告者:坂本 清音 企画報告3「同志社ハリス理化学校の設立」 報告者:森 一郎 企画報告「『同志社大学設立の旨意』を読む」 報告者:伊藤 彌彦 質疑応答
第6回同志社 を語る会	2018年9月10日(月) 「新島襄の足跡を辿る—神戸・三田・岸和田編—」 報告者:田島 繁
第178回例会	2018年10月15日(月) 「新島襄の英学事始め」 報告者:三好 彰

第179回例会	2018年11月12日(月) 「山室軍平著『平民之福音』のことばと文字」 報告者：大島 中正
第180回例会	2018年12月10日(月) 「海老名弾正と「日本的キリスト教」をめぐる諸問題」 報告者：西田 毅
第181回例会	2019年1月21日(月) 「アニー・L・ハウ(頌栄創立者)と同志社(+a:ガウチャーの墓参について)」 報告者：森田 喜基
第7回同志社 を語る会	2019年3月11日(月) 「学生と一緒に新島襄と同志社を学ぶ」 報告者：ティール・ニコラス

第1部門研究(新島研究)運営委員会(2018年度)

横井 和彦(代表)、生田 香緒里、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第110号 A5判 205頁 2019年2月12日発行

論 叢	「新島襄の大学構想—『同志社大学設立の旨意』130年—」記念シンポジウム カレッジとユニバーシティ—新島襄の私立大学構想— 新島襄と女性教育—『新島襄先生の遺訓』を手がかりに— 同志社ハリス理化学校の設立 「同志社大学設立の旨意」を読む シンポジウム総合討論 新島襄は強い人であった 新島襄の英学事始め 『聯邦志略』を読む 同志社普通学校高等科—新島襄が実現させたリベラル・アーツ・カレッジ—	大越 哲仁 坂本 清音 森 一郎 伊藤 彌彦 井上 勝也 三好 彰 坂本 恵子 大越 哲仁
エッセイ	新島襄の足跡を辿る 南九州編	田島 繁
コラム	新島の墓前におけるジョンF. ガウチャーの一枚の写真	森田 喜基
追 悼	宮澤正典氏 追悼 宮澤正典さんのことども 宮澤正典さんの思い出 宮澤正典先生の思い出 籠谷次郎氏 追悼 籠谷次郎さんを偲ぶ 籠谷次郎先生 籠谷次郎先生を偲んで	北垣 宗治 西田 毅 森 一郎 高久嶺之介 竹内 力雄 小枝 弘和

『新島研究』編集委員会(2018年度)

横井 和彦(委員長)、生田 香緒里、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

3. 機関誌

『同志社談叢』第39号 A5判 171頁 2019年3月1日発行

論 叢	文部省『理事功程』と「プロイセン一般ラント法」 同志社大学における尹東柱詩碑建立の経緯と意義 —ワンコリアの夢と新島精神の遭遇 同志社ビジネススクール前史(1)	竹内 力雄 李 元重 阿部 泰士
資料紹介	同志社による近江伝道と新島襄の人脈 —新資料・中島宗達宛新島襄書簡七通に寄せて— 田中不二麿随行時の新島襄の身分—三等書記官心得から附属通弁へ—	本井 康博 竹内 力雄 布施 智子
目 録	新島襄関連の文献目録(37) 購入資料・受贈資料目録	

『同志社談叢』編集委員会(2018年度)

小林 丈広(委員長)、伊藤 彌彦、物部 ひろみ、大島 中正、横井 和彦

4. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第14号(2017年度)
(2018年4月発行)

『2018年度 新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2019』
(2019年3月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』編集委員会(2018年度)
生田 香緒里(委員長)、森永 長壹郎、大鉢 忠、大島 中正

第176回 新島襄生誕記念会

日時：2019年2月12日(火) 17：30～19：15

場所：同志社礼拝堂

表彰

第26回新島研究論文賞

三好 彰(日本英学史学会会員)

第26回新島研究功績賞

北垣 宗治(同志社大学名誉教授)

新島襄生誕記念懸賞論文(2018年度)

【中学校の部】

最優秀賞 三方 稚葉(同志社女子中学校1年)

「新島襄の肖像画」

優秀賞 程 華蓮(同志社中学校1年)

「同志社を陰ながら支えた山本覚馬」

佳作 石崎 陽彩乃(同志社中学校1年)

「同志社で学ぶということ」

三宅 彩由(同志社中学校1年)

「同志社における「キリスト教」」

伊藤 莉那(風間浦中学校3年)

「新島襄の愛」

【高等学校の部】

最優秀賞 中川 志保(同志社女子高等学校3年)

「医師にならず牧師になった大久保真次郎」

優秀賞 清水 翔(新島学園高等学校3年)

「良心教育と労働運動」

佳作 北野 菜々恵(新島学園高等学校3年)

「新島襄が社会福祉事業に与えた影響」

【大学・短期大学・大学院の部】

最優秀賞 篠原 熙比古(新島学園短期大学1年)

「自立した、ひとりの人として一対等で自発的な「奉仕者」としての湯浅治郎一」

佳作 黒須 彩果(同志社大学3年)

「ケーリ先生からのメッセージ」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーはハリス理化学館（1890年竣工、1979年重要文化財指定）を2013年にリニューアルした展示施設である。同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を2つの企画展示室と6つテーマに分けた常設展示室に所蔵資料を展示して紹介している。

開館時間 10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
 閉館日 日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、
 ゴールデンウィーク・夏期休暇・冬期休暇の一定期間
 実施日数 261日（企画展示室は152日）



2018年度入館者数（2018年4月1日～2019年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	3,724人	3,030人	3,367人	2,818人	7,177人	5,059人
同志社のあゆみ	1,731人	1,411人	1,503人	1,331人	3,694人	2,553人
企画展示室	2,693人	—	—	—	8,521人	5,499人
京都の中の同志社	2,235人	1,941人	2,271人	2,354人	4,960人	3,025人
同志社の今	2,077人	1,493人	1,548人	1,877人	4,002人	2,280人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6,425人	7,118人	4,477人	2,113人	2,830人	5,076人	53,214人
2,745人	3,144人	1,974人	1,063人	1,476人	2,675人	25,300人
3,863人	5,602人	2,957人	—	397人	3,312人	32,844人
3,757人	3,529人	2,301人	1,161人	1,819人	2,371人	31,724人
2,337人	3,275人	1,797人	662人	693人	2,449人	24,490人

新島旧邸

1875（明治8）年11月29日、同志社英学校がこの地に開校したことを記念し、建学の精神を体感する場として公開している。新島襄の私邸で、ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって1878（明治11）年に建てられた。1985（昭和60）年、調度・家具類を含めて京都市から有形文化財に指定された。建物の保護のため、公開と保存を両立する形に公開方法を見直し、通常公開は、旧邸の周囲から建物内部を見学に留め（建物内への入場は不可）、特別公開のみ、母屋1階と附属屋への入場を可としている。

開館時間 10:00～16:00（入館受付は15:30まで）
 通常公開 4月～7月、9月～11月、3月の毎週火・木・土（祝日を除く）
 特別公開 4月1日～5日、オープンキャンパス、10月1日～5日、ホームカミングデー、
 同志社創立記念日、卒業式

2018年度見学者数

4月	5月	6月	7月
1,259人	647人	559人	269人
9月	10月	11月	3月
888人	1,093人	1,293人	1,177人
合計	期間外		
7,261人	76人		



委員会

同志社社史資料センター委員会委員(2018年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
稲岡 恭二	教務部長	後藤貴三恵	中学校・高等学校教諭
濱 吉輝	事務局長	藤井 宏樹	香里中学校・高等学校教頭
小山 隆	人文科学研究所長	平松 讓二	女子中学校・高等学校教頭
石塚 則子	歴史資料館長	戸田 光宣	国際中学校・高等学校教頭
岩田 喬	広報部長	横井 和彦	経済学部教授
柳井 望	法人事務部長		

同志社社史資料センター運営委員会委員(2018年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	石塚 則子	歴史資料館長
稲岡 恭二	教務部長	柳井 望	法人事務部長
濱 吉輝	事務局長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
小山 隆	人文科学研究所長	横井 和彦	経済学部教授

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会(2018年度)

植木 朝子	副学長(委員長)	谷本 高彦	総務部長
小林 丈広	同志社社史資料センター所長(副委員長)	柳井 望	法人事務部長
石塚 則子	歴史資料館長	横井 和彦	キリスト教文化センター所長
山田 礼子	社会学部長	越前 俊也	文学部教授
南井 正廣	グローバル・コミュニケーション学部長		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会(2018年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(部会長)	中安 真理	文化情報学部助教
若林 邦彦	歴史資料館教授	小枝 弘和	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	布施 智子	社史資料調査員
木谷 佳楠	神学部助教	矢部 景子	社史資料調査員

『同志社百五十年史』編纂準備委員会(2018年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	大島 中正	女子大学表象文化学部教授
横井 和彦	キリスト教文化センター所長	桜井 希	中学校・高等学校教諭
山田 史郎	文学部教授	生田香緒里	女子中学校・高等学校教諭
越水 雄二	社会学部准教授	柳井 望	法人事務部長
山田 邦和	同志社女子大学史料センター長		

事務室

所長	小林 丈広
事務長	上田 裕保
係長	笹波 和裕
社史資料調査員	小枝 弘和
社史資料調査員	布施 智子
社史資料調査員	矢部 景子
契約職員	森 智奈美
アルバイト	3名
研究補助員	1名

資料整理

学生アルバイト	交代勤務
大学院生	11名登録
学部生	31名登録

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月20日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、広報部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム (DOORS) に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

2 貸出ができる者は、以下とする。

- ア) 同志社大学学生・教職員
- イ) 同志社女子大学学生・教職員
- ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
- エ) センターが設置する部門研究の参加者
- オ) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第15号

発行日 2019年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<https://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：岡本一平画「新島襄先生」
漫画家の岡本一平（前衛芸術家・岡本太郎の父）による肖像画。画賛の句はヨハネによる福音書第3章16節とヨハネの第一の手紙第4章16節「神は愛なり」の聖句である。
2018年夏期に行った企画展「新島襄のかお」では、関連イベントとして「新島襄のかお総選挙」を行い、出陳した肖像画の人気投票を行った。その結果、現在同志社礼拝堂に掲げられている伊藤快彦の作品をはじめ、堂々とした上半身の正面像の肖像画がランクインするなか、この岡本の作品が3位と人気を集めた。漫画家らしい洒落なタッチで描かれた珍しい作品である。